

平成27年7月22日

審判委員長 小林達月

第28回 北信越小学生バレーボール大会 審判員確認事項

1 日程

- (1) 第1日目 8月1日(土) 審判員控室：会議室2(但し、監督会議終了後)  
補助員控室：研修室2(エントランスホール近く)
- 7:30 県小連審判委員集合 於ホワイトリングサブ
- 7:50 南長野コート設営者集合(阿倍昌幸, 伊波智仁, 森哲夫, 野原啓司)  
於南長野体育館
- 8:00 南長野コート設営開始 ※コート完成後開会式に間に合うようホワイトリングへ
- 8:00 県内審判員ミーティング(金井清人 小林達月 審判員)  
於ホワイトリングサブ
- ・出欠確認
  - ・競技, 審判上の注意最終確認
  - ・ルール等最終確認
  - ・審判クリニック モデルチーム チーム七二会 川中島クラブ  
主審：生坂 徹 副審：五十川賢治 記録：杉本 悟  
ラインジャッジ：裾花
- 9:00 補助員集合 チーム確認 Tシャツ配付(補助員 補助員指導者 高遠紘介)  
補助員ミーティング(高遠紘介 補助員指導者 補助員) → クリニック観戦  
於ホワイトリングサブ
- ※ 以後、補助員は補助員指導者が責任をもって行動させる。
- 9:15 県外派遣・上級審判員との顔合わせ会(金井清人 審判員 補助員指導者)  
於ホワイトリングサブ
- 9:30 ホワイトリングサブ体育館コートチェック(審判員 競技委員と協力して)
- 9:30 アトラクション参観のため移動(審判員 補助員指導者 補助員)  
於ホワイトリングサブ→メイン
- 9:45 監督会議(小林達月)
- 9:45 アトラクション(審判員 補助員指導者 補助員) 於ホワイトリングメイン
- 10:10 アトラクション終了予定
- 10:30 開会式(審判員 補助員指導者 補助員)
- 11:00 移動(南長野体育館審判員 補助員指導者 補助員) 到着後コート最終チェック  
※ 審判員はチェック終了後昼食 於談相室1または2  
補助員指導者・補助員は到着後すぐ昼食 弁当 於補助員控えエリア  
補助員の移動方法は補助員のチーム関係者にお願い
- 11:00 コート最終チェック(ホワイトリング審判員)  
※ 審判員はチェック終了後昼食 弁当 於審判控室：会議室2  
補助員まとめ役・補助員はすぐ昼食 弁当 於審判控室：会議室2
- 11:20 第1試合審判ミーティング(第1試合担当審判員 補助員 補助員指導)  
於ホワイトリング=審判控室：会議室前廊下 於南長野=補助員控えエリア
- 11:30 コート責任者の合図で、各チームコート練習開始 ネットは使用しない
- 11:50 第1試合チーム 5分間合同練習(当該審判員がコントロール)  
第1試合コートチェック
- 12:00 第1試合プロトコール開始
- 12:11 第1試合プレイボール 各コートそろえる 始球式?
- 前試合の第1セット終了時 次試合審判ミーティング(次試合審判員 補助員 補助員指導)

ホワイトリング 於審判控室：会議室2前廊下 南長野体育館 於補助員控えエリア  
前試合終了後 キャプテンサイン・前試合審判員と監督が握手 記録席を空ける。

→所定の机の場所へ

前試合のチームがコートを開けたところで、次試合チームをベンチに誘導

(次試合審判員)

5分間合同練習 (次試合審判員がコントロール) →チームをベンチに下げる

→コートチェック→プロトコール開始

※ 詳しくは「2 審判員の行動」参照

全試合終了 それぞれのコートの片付けを手伝う

第1日目補助員反省ミーティング (各コートコントローラー 補助員指導者 補助員)

ホワイトリング補助員 於 ホワイトリングメインフロア

南長野体育館補助員 於 南長野体育館フロア

ミーティング終了後 翌日の集合時刻、場所を確認して解散

第1日目審判員ミーティング

(各コートコントローラー 審判員 補助員指導者 会場責任者)

ホワイトリング審判員 於審判控室：会議室2

南長野体育館審判員 於談相室1または2

ミーティング終了後 翌日の集合時刻を確認して解散

18:00 第2日目抽選会 (小林達月) 於 信州松代ロイヤルホテル

19:00 大会懇親会 (申込者) 於 信州松代ロイヤルホテル

2次会 (役員)

(2) 第2日目 8月2日 (日)

7:30 コート設営, コートチェック (審判員) 於ホワイトリング各コート

7:45 コート責任者の合図で, 決勝トーナメントチーム練習開始 (時間制)

於ホワイトリングメイン

8:00 コート責任者の合図でチャレンジトーナメントチーム練習開始 (時間制)

於ホワイトリングサブ

8:00 補助員ミーティング (補助員指導 補助員 高遠紘介) 於ホワイトリング北出入口前

8:00 審判ミーティング (全審判員) 於審判控室：会議室2

8:20 第1試合合審判ミーティング (当該審判員 補助員 補助員指導)

於審判控室：会議室2前廊下

8:50 第1試合チーム 5分間合同練習 (当該審判員がコントロール)

第1試合コートチェック

9:00 第1試合プロトコール開始

9:11 第1試合プレイボール

以降第1日目と同じ

閉会式終了後

第2日目補助員ミーティング (各コートコントローラー 補助員指導者 補助員)

於 ホワイトリングメイン

審判ミーティング (全審判員 補助員指導者)

於 審判控室：会議室2

片づけ

全体ミーティング

## 2 審判員の行動

(1) 競技会役員として、全ての仕事を行う。

(総務、競技の仕事もお手伝いします。チーム・応援の皆さんのお役に立ちます。)

(2) 試合にかかわる基本的な動き

① 記録用紙に必要な事項を記入し、選手名等を正しく訂正したプログラムで確認する。

(記録員、副審、できれば主審も)

② 第1試合は11：50（1日）8：20（2日）、その他の試合は前の試合の1セットが終わったところで、主審・副審・記録員・線審・点示員でミーティングを行う。

ホワイトリング＝審判控室：会議室2前廊下 南長野＝補助員控えエリア

③ 前の試合が終了したら、速やかにコートに入る。コート責任者（競技委員）とともに、前試合のチームがベンチを空けるまで次試合のチームがベンチに入らないようにコントロール。

※ コート責任者は、ラインテープなどのチェックを行う。

④ 両チームがベンチに入ったら、コート責任者とともに、5分間合同練習の開始時間を設定し、両チームに伝える。但し、合同練習開始前にコートに入ったり、ボールを使った練習をしたりすることはできない。

合同練習の5分間の使い方（ネットを使うかどうかを含め）をチーム同士で話し合うよう促す。合同練習中はチームの責任でボールをコート外に散らばらせないように指導する。

※ 連続する試合の場合は、最大15分間の休憩が認められている。但し、今大会では、合同練習は休憩時間に含める。従って、連続する試合となるチームが休憩を15分要求した場合は、合同練習はプロトコール開始5分前から始める。

⑤ 両チームをベンチに戻す。

⑥ コートチェック（ネットの高さ、張り具合、アンテナの位置およびサイドバンドの位置）

⑦ プロトコール

※ トスの際、主副審は向かい合うように立つ。副審は、記録員の視界を妨げないように配慮する。

※ 監督、コーチ、マネージャーは規定のマークを各チームで用意し、明確に判断できる位置（左胸が望ましい）につけること。また、上記の内1名以上は全国指導者講習会受講証（2次）又は、（公財）日本体育協会認定の指導員、上級指導員、コーチ、上級コーチのいずれかの資格証明書を所持し、試合中は常に胸に掲げていること。トス前に審判員が資格証明書を確認する。

※ トスの際、チームキャプテンはキャプテンマークのついているユニフォームを着用していること。

※ プロトコール中に、エントリー（選手、チーム役員）の確認を行う。

※ 両チームがエンドラインに整列するのに合わせて、審判役員はそれぞれの定位置につく。

⑧ 試合中、主副審は、線審・点示員の健康状態にも気を配り、体調がすぐれないようであれば、コート責任者とともに対処する。

⑨ 試合中点示が間違っていた場合、記録員はコート責任者または競技会役員に声をかけ、訂正してもらう。

※ 副審に声をかけ、試合進行を妨げることはしない。

⑩ 試合終了後両キャプテンからサインを採録し、主副審と両監督が握手したら、審判員は速やかに記録席を空け、各コートの記録用のテーブルに移動する。主副審は、線審・点示員とミーティングを行う。記録員は記録を仕上げる。

⑪ その後、審判員は必ずコントローラーとミーティングを行う。審判員またはコントローラーが次の試合の審判を行う場合は、コート付近で簡単なミーティングとすることもできる。

⑫ 審判員は審判の会場責任者（ホワイトリング：小林達月、南長野：北川正美さん）とミー

ティングを行い、主審から記録用紙を提出する。

※ 会場責任者は記録用紙を確認後、競技委員の会場責任者(ホワイトリング:加藤元久さん、南長野:中村浩さん)に提出する。

(3) 第1日目全試合終了後のミーティング

- ① 全試合終了 それぞれのコートの片付けを手伝う
- ② 第1日目補助員反省ミーティング

(各コートコントローラー 補助員指導者 補助員 会場責任者)  
ホワイトリング補助員 於 ホワイトリングメインフロア  
南長野体育館補助員 於 南長野体育館フロア

- ・司会:会場責任者
- ・コントローラーより講評 ・補助員、補助員指導者からの質疑と応答
- ・返却物, 2日目日程等確認 ・解散

- ③ 第1日目審判員ミーティング(各コートコントローラー 審判員 補助員指導者 会場責任者)  
ホワイトリング審判員 於 審判控室:会議室2  
南長野体育館審判員 於 談相室1または2

- ・司会:会場責任者
- ・コントローラーより講評 ・審判員からの質疑と応答
- ・返却物, 次の日の集合時刻等確認 ・解散

(4) 第2日目閉会式終了後のミーティング

- ① 決勝戦終了後 閉会式準備の手伝い 閉会式参加
- ② 第2日目補助員ミーティング

(各コートコントローラー 補助員指導者 補助員 会場責任者)  
於 ホワイトリングメイン

- ③ 審判ミーティング(全審判員 補助員指導者 会場責任者) 於 審判控室:会議室2

- ・内容は第1日目に準ずる。県外審判員, 上級審判員は解散

- ④ 片付け→全体での最終ミーティング→解散

(5) 審判上の確認事項

- ① セット開始時, 選手はコート中央に副審側を向いて, アタックラインからエンドラインに向かってサービス順に並ばせる。
- ② 監督は, ゲームを妨害しない限り, フリーゾーン内での選手への指示を認める。但し, ラリー中はベンチに座っていなければならない。コーチ, マネージャーは立ち上がったの指示や声援をすることはできない。
- ③ ボールをプレーするときは, ボールが身体の数か所に連続して接触しても, それが一つの動作中に生じたものであれば許される。
- ④ 相手チームに対しての侮辱的な行為(相手チームに向かってのガッツポーズも含む)は反則の対象となる。
- ⑤ ロングサービス(サービス順の誤り)は極力出さない。
- ⑥ タイムアウトの要求は, 必ずハンドシグナルを用いること。
- ⑦ スクリーンの反則は極力出さない。疑いのある場合は, ゲームキャプテンを呼び注意を促す。
- ⑧ ラインジャッジ(児童)に対してのクレームは絶対に許さない。場合によってはチームの反則とする。応援席から同様のクレームがあった場合は, その内容をコート責任者(競技委員)に伝える。コート責任者はクレームをした事実と人物がどのチームの関係者なのか確認する。その後, 大会本部にて当該チームの監督と当人に事実確認を行い, 場合によっては指導を行う。

### 3 留意事項

(1) 審判員として品格のある身なり、行動を＝審判員は周りから見られている。

- ・誰に対しても礼儀正しい言動を
- ・審判服のボタンは、第2ボタンまで留める。
- ・休憩中であっても、審判服をズボンの上に出さない。
- ・ベルトは黒色のものを
- ・チーム関係者との接触について、他チームから公正さを疑われるような行動はしない。

審判服を着たまの雑談に注意

(2) 報告・連絡・相談を

- ・トラブル等が発生した場合は、コントローラー、会場責任者、大会委員長に
- ・内容によってはその場で判断して安易に答えることなく、大会本部で協議して答える。  
そのために、当事者の氏名、関係するチーム名、連絡先を確認、場合によっては大会本部まで来てもらう。
- ・審判にかかわることは、全体ミーティングで報告、全審判員が共有できるようにする。

### 審判上の注意事項 (監督会議資料・プログラム記載事項)

#### 1 トスについて

(1) トスは記録席の前で試合開始11分前に行う。

(2) トスにはチームキャプテンが立ち会い、キャプテンマークのついたユニフォームを着用していること。

2 公式練習は試合開始10分前より、両チーム合同で行う場合は6分間とし、単独で行う場合は3分間とする。

#### 3 スコアリング・システム

小学生のためのラリー・ポイント・システム (3セットマッチ)

(1) ラリーに勝ったチームは、サービス権と1点を獲得する。

(2) セットの勝者

一つのセットは、21点を先取したチームがそのセットの勝者となる。ただし、20対20になったときは、いずれかのチームが2点リードするまで続行される。セットカウントが1対1になった場合、最終セットは最小限2点差をつけて、15点を先取したチームが勝者となる。また、最終セットは、8点でコートの交換を行う。

#### 4 センターラインを越えて相手コートに侵入すること

片方の足 (両足) または片方の手 (両手) がセンターラインを越えて相手コートにふれても、侵入している片方の足 (両足) または片方の手 (両手) の一部がセンターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる身体の部分も相手コートにふれることは許されない。

#### 5 ネットへの接触

ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。ボールをプレーする動作の中には、(主に) 踏み切りからヒット (またはプレーの試み)、着地までが含まれる。相手チームのプレーを妨害しない限り、選手は支柱、ロープ、またはアンテナの外側にあるネットや他の物体に触れてもよい。ボールがネットにかかり、その反動でネットが選手に触れても、反則ではない。

6 フリーポジション (位置による打順ではない) のため、サービス順は特に間違いのないようチーム役員も十分注意すること。

7 試合終了後、両チームはすみやかにベンチを空けること。

前の試合の両チームがベンチを出るまでは、次のチームはコートに入ることはできない。両チームは当該審判員の指示によりコートに入る。なお、5分間の合同練習は合意によりネットを使用することができるが、ほかのコートや観客席などへボールが散らばることが無いようにすること。

8 監督は、試合を妨害しない限り、フリーゾーン内ならばアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでの範囲内において、一時的にベンチを離れてコート上の選手に指示を与えてもよい。ただし、ラリー中はベンチに座らなければならない。

9 試合中、選手は小さなタオルを身につけ、床の汗は自分たちでふくこと。

10 汗によるボール、並びにユニフォームの交換 (セット間) は、そのつど審判に申し出ること。

- 11 競技者が負傷して、例外的な競技者交代をした場合、負傷した競技者は、その試合に復帰することはできない。
- 12 タイムアウトの間、プレー中の選手はベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。  
チームの要求するすべてのタイムアウトは 30 秒間である。本大会では、給水のためのテクニカルタイムアウトが適用される。
- 13 JVA競技会におけるチーム役員は、ジャケットを着用するか、選手と同じウェアを着用する。また、役員全員が統一されたウェアを着用することも認められる。  
※ Tシャツ、短パンは認めない。但し、児童がコーチ、マネージャーとなる場合は、この限りでない。
- 14 ブロック後の第1回目のボールへの接触と同じように、一連の動作中であれば、第2、第3回目のボールへの接触でもダブルコンタクトの反則にならない。